

国立病院機構熊本医療センター

No.228



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



平成28年熊本地震について — ご協力頂きありがとうございました —

本震より一ヶ月が過ぎ、復興に向けての歩みが始まっております。今回の震災時に、連携の各施設に協力していただき、大変有り難うございました。感謝申し上げます。

この一ヶ月を当院の診療と地域の連携での視点で振り返りますと、今回の震源地が熊本市の東部、益城町であり、当院は震源より離れていたため本震のあった4月16日夕には病院機能は、何とか保たれていました。震源に近い熊本赤十字病院、済生会熊本病院は負傷者の受け入れ最前線病院となり、当院と中央区から北部の病院群は、病院自体の機能が被災した病院からの転院患者受け入れ、救急搬送患者の受け入れ、さらに連携病院への移送と県外移送をおこなう役割を果たしました。当院では退院可能な入院患者の皆様に、早めの退院をお願いしました。当院が重症の受け入れが多くなることをご理解いただき、快く受けていただきました。本当に有り難うございました。

日頃の連携先の病院も、県の災害対策本部からの直接の患者受け入れ要請を受け入れていましたが、さらに当院からの転院要請、受け入れ要請につき「熊本のためですから」の一言で快く受けていただきました。後日、受け入れ先を訪問し状況をお聞きしますと、満床を超えての受け入れであったとのことでした「熊本のために助け合う」この心での繋がりを感しました。当院では連携室から転院依頼をお願いしましたが、各病院の被災状況、医療機能につきましてもご連絡いただき、日頃の顔の見える連携の大切さと、皆様の災害を協力で乗り切ろうという熱い思いに心打たれました。

一步一步の復興の道のりが続きますが、熊本地域の医療連携をさらに高めて乗り切っていきましょう。今後ともよろしくお願い申し上げます。
(診療統括部長・地域医療連携室長 清川哲志)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

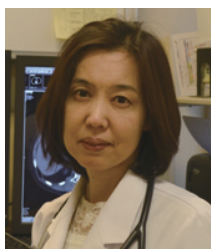
1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「常に変わらないことを目指して」

くわみず病院

院長 池上あずさ



わたくしどもくわみず病院は、県庁近くにある神水に立地する100床の一般病院ですが、元は熊本保養院という精神科単科の病院がその前身でした。昭和56年に精神科病床は菊陽病院に移転し、内科を中心とした一般病院に建て替えた後、精神科は外来だけになってしまいましたが、精神科病院のイメージは市民の皆さんには強く残っておられると思います。さて、現在のくわみず病院の特徴としては3点ほどあげられます。一つは、100床という小回りの良さを生かしまして、地域密着型病院として、外来、HCU 8床を含む急性期一般病床、地域包括病床、訪問診療によって患者さんの生涯に寄り添う医療、患者中心の医療を目標としている点です。現在22の開業医の先生方の開放型病床及び強化型在宅診療として5か所の開業医の先生方の在宅の後方支援もしております。そこで、外科もないわたくしどもの病院にとって最も重要な連携先が医療センターです。原則当院は2次救急病院ですので、外科的疾患を

中心とした救急疾患に関しましては、医療センターとの連携なしには毎日の診療を完遂できません。患者中心の医療と簡単に申しましたが、実現はとても困難なことが多いと日々感じております。それでも、「何かあったらいつでも引き受けてくれる医療センター」の存在は大変頼もしく、患者さんを中心に診療をおこなっていくという信念をわたくしどもとの間に結んで結んでいると思っていますところ。2点目は、当院は内科認定医と家庭医を志す医師の研修施設として研修医を育てておりますが、この点に関しても医療センターとの連携で進めているところです。現在、初期・後期研修合わせて6名の研修医と家庭医療プログラム1名の研修医の先生達が頑張っています。3点目としましては、皆さんもご存じと思いますが、熊本県下唯一の日本睡眠学会の認定施設でありまして、睡眠障害の診断と治療の専門施設として、医療センターからのご紹介も引き受けております。私どもの病院の特徴であります3点が3点とも医療センターとの連携なくしては成り立たないのですが、今後医療制度がどのように変遷しようとも常に患者さんを中心とした医療を行っていきたいという点は変わらないという信念でお互いに尊重しあいたいと心から思っています。

特に救急部の高橋先生、先生の存在はわたくしにはとても感謝です！



医学生のための臨床研修説明会のお知らせ

平素は研修医の地域医療研修等についてご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。さて、この度、当院では毎週金曜日に行なっております医学生を対象とした病院見学会に加え、次年度の臨床研修に向けての臨床研修説明会を下記の通り実施することになりましたのでご通知申し上げます。

説明会では指導者および研修医も参加し、医学生との意見交換や病院機能・研修内容等についての紹介もあり、当院のことを理解してもらい良い機会ですので一人でも多くの医学生に参加して頂きたいと思っております。熊本医療センターでの研修に興味をお持ちの医学生がおられましたら、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

(教育研修部長 大塚忠弘)

医学生のための臨床研修説明会

日時：平成28年6月11日(土) 13:00~16:30

場所：国立病院機構熊本医療センター 看護学校

職場紹介

放射線科



MRI



CT



リニアック



ガンマカメラ



アンギオ



マンモグラフィ

放射線科は1階の31核医学センター、32放射線治療センターと4階22画像診断センターに分かれています。スタッフは放射線科医（7名）診療放射線技師（23名）看護師（4名）受付（2名）心カテ・アンギオ検査処置チーム看護師（11名）救命看護師（2名）で運営しています。放射線装置は一般撮影、X線透視、外科用イメージ、ポータブル、骨密度、パントモ、マンモ、CT、MRI、アンギオ、心カテ、ガンマカメラ、リニアック、RALS、ブラキーシステムを備えています。昨年度はマンモグラフィ装置が更新されました。今年度はアンギオ装置が更新される予定です。このように診断から治療まで幅広く装置を備え、各診療科の先生方からの様々なオーダーにお応えし、最良な画像、診断、治療を提供しています。診療放射線技師においては、二交替勤務で24時間救急検査に対応し、迅速で最適な画像の提供に努力しています。特に時間外検査においては診療放射線技師の読影力にも期待されていることから、読影力のレベルアップを目標に、昨年度から放射線科内勉強会、放射線科医と合同で症例検討会を始めました。患者様のためにチーム医療として貢献できればと考えています。今後も放射線科スタッフ一同は皆様の期待に沿えるように邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(副放射線科技師長 矢ヶ部義則)

マラソン: 吉松、久木野、阿萬、古田(祐)、尾崎、藤野、井上



サーフィン: 深松



釣り: 丸山、北口、古田(祐)、藤野



野球: 尾崎、井上



テニス: 岩下、丸山、古田(真)、竹尾、中村



ゴルフ: 根岸、北口、井手口、古田(祐)、尾崎、井上、田中



カメラ: 中村



ピアノ: 平田



ダイビング: 尾崎、川野、岩下



キックボクシング: 中野



祇園太鼓: 古川



筋トレ: 尾崎、村山、肥後



放射線スタッフの趣味を紹介します

多種多様で、特にマラソンは数々の大会に出場している本格的なチームです。

新しい乳房X線撮影装置を導入しました

平成28年3月に新しい乳房X線撮影（マンモグラフィ）装置として富士フイルム社製の「AMULET Innovality」が導入されました。本装置は最新のデジタル式マンモグラフィ装置で、ロスの少ない直接交換方式を使用したフラットパネル型ディテクタ（FPD）が搭載され、従来より低線量で高精細な画像の撮影が可能です。

本装置にはトモシンセシスという乳房内部の構造を撮影可能にする新しい撮影技術が備わっています。トモシンセシス撮影では、X線管球を移動しながら連続的に低線量でX線を照射し、複数の位置から撮影した画像を三次元的に再構成することで、ノイズを平均化し、見たい構造に焦点を合わせた画像を生成します。この再構成された断層像により、通常撮影では乳腺構造の重なりのため発見が難しかった病変の観察が行いやすくなります。

また本装置では、プレ撮影で収集した僅かな画像情報を解析することで、乳腺濃度（乳腺量）、インプラント等（異物）の有無を瞬時に判断し、撮影線量・線量を決定しますので、乳腺毎のX線量最適化が可能となりました。

より少ないX線量で質の高い画像を撮影し、患者さんに優しい検査と診断しやすい画像を提供いたします。ご活用ほどよろしくお願いたします。



新しく導入されたマンモグラフィ装置

（放射線科医長 浅尾千秋）

平成28年度新任者宿泊研修が行われました

第4回「新任者宿泊研修」が4月8～9日にグリーンピア阿蘇にて開催され、新任医師と医師以外の他施設からの転入者の合計58名が参加しました。

1日目は高橋副院長より「当院における救急医療体制の構築の歴史」という題にて、当院のこれまでの成り立ちについて講演していただきました。今は多くの実績がある救急が、以前はまったくのゼロからのスタートだったということを知り、「365日24時間断らない救急」の成り立ちと重要性が参加者の心に深く刻まれました。

その後は内田事務部長の乾杯で宴会がはじまり、美味しい料理とお酒をいただきながら、親睦を深めました。様々な職種の方々と交流ができ、今後の業務の円滑な実施にいかせるとの声を多数いただきました。

2日目の午前中は「患者接遇マナー研修」として外部講師による研修が行われました。接遇マナーの基本から、挨拶・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度など4時間みっちり学びました。参加者による実演を交



宿泊研修参加者で記念撮影

えながら、昨晚飲み過ぎた面々も眠くなることなく学習することができました。実演をすることで、分かっているつもりでもできていないことを痛感したという意見が多数あり、大変有意義な時間となりました。

午後からは、原田救命救急科医長より「救急外来診療の実際」として、救急医療現場での基本的なルールについて説明していただきました。人員配置体制から現場でのルール・マナーなど、新任職員にとって極めて大事で実践的な内容を楽しく分かりやすくお話しいただき、大変好評でした。

その後、片淵副院長より閉会の辞があり、最後に記念撮影をして研修は無事終了しました。参加者全員が熊本医療センターの一員になったということを改めて実感できるよい機会であったと感じました。大好評につき、来年度も第5回が開催される予定です。

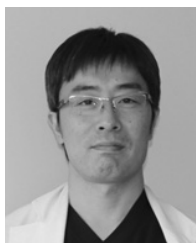
（庶務係長 森松 亮）



研修の様子

最近のトピックス

パーキンソン病の画像診断



神経内科医長

田北 智裕

パーキンソン病 (PD) は、代表的な神経変性疾患の1つですが、50歳以上では100人に1人が罹患していると言われ、決して珍しい病気ではありません。

治療法として根治療法はなく対症療法のみですが、それにより生活の質はかなり向上しますので、早期診断し、適切に治療を開始することが人生をより充実したものにするために重要になります。

PDの診断は、これまでは神経症候を実際に評価し、病歴や薬の反応性などで判断することにより行われてきました。頭部MRIも随分発達してきてはいますが、PDに関しては「特別異常がない」ことがいわゆる特徴であり、鑑別すべき疾患が多く、非典型的な臨床症候を示すことも多いPDでは、実際の現場において専門医でも診断に迷うことが少なくありません。

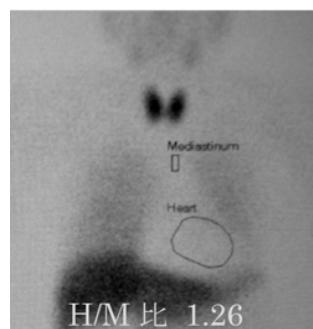
そういった中で、ここ数年で診断の大きな助けになりつつあるのが、次に挙げる2つの核医学検査です。

1つは、 ^{123}I MIBG心筋シンチグラフィ (MIBG心筋シンチ) です。PDは、その変性した神経細胞内にレビー小体と呼ばれる封入体を有するのが特徴ですが、この同じ特徴を有する疾患群を「レビー小体病」と呼びます。レビー小体病には、PD以外に、レビー小体型認知症や純粹自律神経不全症などがありますが、これらの疾患ではMIBGが心臓に取り込まれにくいという性質があり、これを利用して診断の補助としています。MIBG心筋シンチでは、心臓 (H) と上縦隔 (M) に関心領域を設定し、そのMIBG集積の比率 (H/M比) を計算し、判断します。その診断精度は、

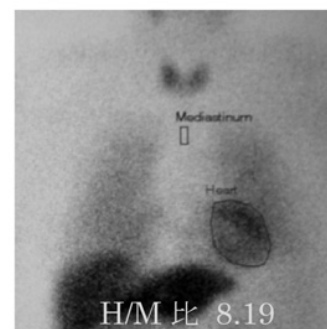
進行例では感度特異度ともに80%以上とも言われています。

もう1つは、 ^{123}I -イオフルパンSPECTです。 ^{123}I -イオフルパンはドパミントランスポーター (DAT) に高い親和性を有し、別名DATスキャンとも呼ばれます。DATとは、ドパミン神経細胞が自ら放出したドパミンを再利用するために取り込むための蛋白質です。PDなど黒質線条体ドパミン神経細胞が変性する疾患では、その神経終末のDAT密度が低下しており、これを画像化して診断に利用します。PDでは線条体の背外側から低下する特徴があり、正常のコンマ型分布から円形へ変化しながら低下します。定量評価法としては、線条体領域と後方領域の関心領域の比 (SBR: specific binding ratio) で評価する方法があります。ただ、PD以外の進行性核上性麻痺や多系統萎縮症、皮質基底核変性症などでもDAT密度低下を認めるため注意が必要です。血管性及び薬剤性パーキンソニズムや本態性振戦などとの鑑別が有用と考えられます。

MIBG心筋シンチ

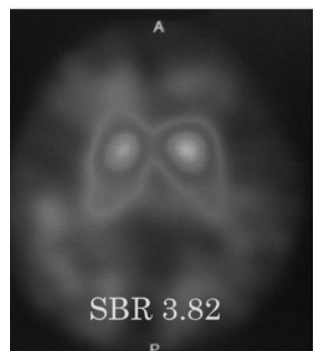


PD症例

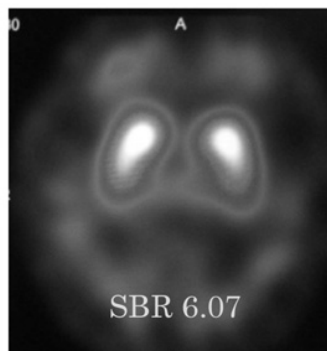


正常例

DATスキャン



PD症例



正常例 (本態性振戦)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ104回

ICU看護師の人工呼吸管理患者への離床場面における判断
—ショック期を離脱した患者を端座位とする場面を通して—

ICU病棟 橋本麻里衣 星本みなみ 山床亜文 西山幸子 川内サユリ

熊本医療センターICUは早期離床に積極的に取り組んでいますが、クリティカルケアを要する患者に対して離床実施可能か判断が難しく、取り組みに個人差が出ている状況です。そのため、本研究に取り組むことで人工呼吸管理患者に対する早期離床の実践向上に向けた示唆を得ようと考えました。

【目的】

本研究でICU看護師が人工呼吸管理患者の離床場面どのような判断をしながら看護実践を行っているかを明らかにすることです。

【方法】

ICU看護師5名を対象とし、参加観察法による質的記述的研究を実施しました。看護師3名で患者を端座位とする場面を2回データ収集し、患者のどのような点を観察し判断しながら離床実践しているのかという視点から、特徴づける行為や語りに着目し概念化しました。さらに抽出した概念の関連性を検討し、その構造を分析しました。

【結果】

離床時のICU看護師の臨床判断と看護実践を特徴づけるものとして51コード、9サブカテゴリー、5カテゴリーが導き出されました。(図1)

【考察】

〈離床実施に至るアセスメント過程〉より、早期から離床を開始することで、患者の心肺機能や筋力を入院前の状態により近づけたいという看護師の思いが明らかとなりました。また、ICUは生命の危機に直面している患者が多く、患者の今現在の状態を重要視してしまう傾向にあります。超急性期である今、退院後

の生活を見据えた上で看護として何ができるのかという点も考えていました。〈体位を変えることでのリスク回避〉からは、看護師はモニターや患者の状態に変化がないか確認を重ねることで、自信を持ちながら離床を実施することが明らかになりました。そして、これらのカテゴリーから〈その時の患者の状態に合わせた介助方法の検討〉へと繋がり、看護師は必要以上の介助にならないよう介入方法の検討を繰り返し、患者自身にできることは促すことで、患者の今の状態に合わせて離床方法を工夫することわかりました。

〈患者を全人的に捉えた環境作り〉より、看護師は患者の離床意欲を引き出すために安楽な要素を取り入れることや、ねぎらいの言葉をかける特徴がありました。これらのことで患者の離床意欲を保ち、リハビリを継続させることで元の生活へ早く戻ってほしいという思いと同時に、辛い状況の中で離床に協力してもらい申し訳ないという気持ちも存在するということが明らかとなりました。看護師は患者を離床させる際、観察やアセスメント、工夫を凝らしていくことで、離床による効果を高めていくことで〈効果的な離床の実施〉を実現していました。

【結論】

- 看護師は患者を離床させる際に、観察やアセスメントを重ねることで離床に伴うリスクを最小限とし、離床がより効果的なものとなるよう様々な工夫をすることが明らかとなりました。
- ICU看護師は早期から離床を開始することで、患者の心肺機能や筋力を入院前の状態により近づけていました。

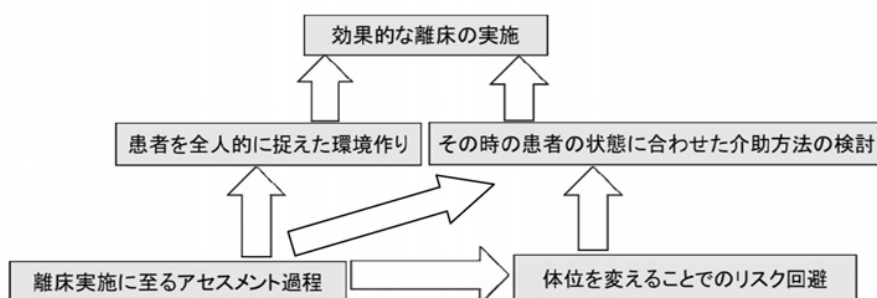
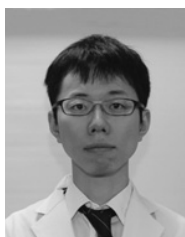


図1 概念図

新任職員紹介

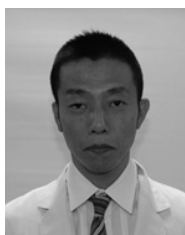


消化器内科

なか がき たか し
中垣 貴志

4月より消化器内科に赴任しました中垣貴志です。久留米大学を卒業し、津島市民病院での初期研修の後、熊本大学消化器内科に入局し、済生会熊本病院で2年間過ごしてきました。

まだ不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、研鑽を積み、医療に貢献できるようになりたいと思います。宜しくお願い致します。



精神科

ひら た たか ひと
平田 尊仁

平成28年4月1日より精神科で勤務させていただき平田尊仁と申します。当施設は熊本の精神科患者さん救急身体合併

の対応が可能な唯一の施設と伺っています。リエゾンの役割として他科との連携が重要になると思われます。お互いの役割を尊重しながら診療を進めていきたいと考えています。また精神科は他職種連携によるチーム医療が重要だと思いますので、スタッフとのコミュニケーションに努めます。関係者の方にはご迷惑をおかけすることがあるとは思いますが、これからよろしくお願ひいたします。

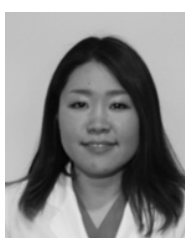


腎臓内科

かじ わら な お
梶原 奈央

平成28年4月より腎臓内科として勤務させていただき梶原奈央と申します。熊本大学を卒業後、熊本医療センターにて

2年間初期研修させていただき、その後腎臓内科に入局、熊本大学附属病院、荒尾市民病院、熊本泌尿器科病院に勤務してまいりました。この度縁あって、初期研修時代を過ごした当院に戻ってくることとなり、大変感慨深く、身の引き締まる思いです。初心にかえり、熊本の医療に貢献できるよう日々精進していきたいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。



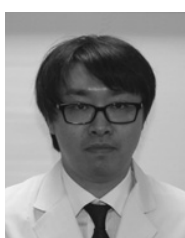
外科

い とう やま る み
伊東山 瑠美

この度、外科レジデントとして勤務することになりました伊東山と申します。2年間この病院で初期臨床研修医として研修させて頂いてから、2年ぶりに戻って来ることとなりました。私にとってこの病院は、医師としてのスタートを切っ

た場所であると同時に、外科医を志すきっかけとなった思い入れのある場所であり、嬉しく思う反面、これまでの自分の成長が試されるようでやや緊張しています。今回は前回よりも皆様のお力になれますよう、より一層精進して参りたいと思ひます。

外科医としては経験も浅く、まだまだ未熟ですが、当院の掲げる「断らない医療」を実践すべく、フットワーク軽く動いて参りますので、何かありましたらいつでも声をかけて頂けますと幸いです。何卒宜しくお願ひ致します。



整形外科

さか もと けい
坂本 圭

平成28年4月より整形外科医師として勤務させていただき

坂本圭と申します。福岡大学を卒業後、熊本総合病院、熊本大学で2年間臨床研修医として勤務の後、昨年は整形外科として1年間大学で勤務させていただきました。まだまだ勉強不足な点が多々あり、諸先生方、スタッフの皆様方に多大なご迷惑をおかけするとは思いますが、少しでも熊本の医療に貢献できるよう、熊本医療センターの一兵卒として全力を尽くしていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

新任職員紹介



外科
うえむら のりお
上村 紀雄

平成28年4月より外科医師として勤務させていただく上村紀雄と申します。熊本大学出身です。

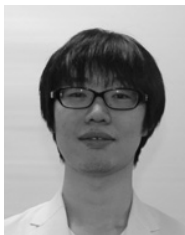
昨年は外科医として1年間熊本大学で勤務させていただきました。経験も浅く、先生方、スタッフの方々にご迷惑をおかけするとは思いますが、よろしくお祈いします。



循環器内科
やまだ としひろ
山田 敏寛

本年度4月より循環器内科に赴任させて頂くこととなりました山田敏寛と申します。3年前の平成25年に熊本大学を卒

業後、この熊本医療センターで臨床研修医として2年間勉強させていただき、平成27年4月より熊本大学医学部附属病院循環器内科へ入局し同院で勤務して参りました。この度研修医として2年間過ごしたこの病院に戻ってくることになり感無量に思っております。まだまだ循環器内科医としても未熟者ではありますが、少しでも皆様のお役に立てればと考えておりますので、どうぞ皆様よろしくお祈い申し上げます。



神経内科
はら けんたろう
原 健太郎

今年度から神経内科で勤務させて頂くことになりました原健太郎と申します。以前研修医の2年間は大変お世話になり

ました。

この度神経内科医として再び熊本医療センターに勤務させていただくことになりました。研修時代を思い出し懐かしさを感じる一方で、もう研修医ではないのだと、身が引き締まる思いも感じております。

神経の専門家として駆け出したばかりですが、一意専心患者さんの助けとなれるよう最大限努力する所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお祈い申し上げます。



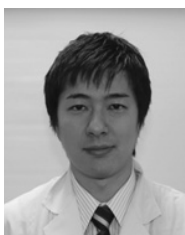
腎臓内科
にしぐち よしひこ
西口 佳彦

はじまして腎臓内科の西口と申します。

平成25年に熊本大学を卒業後、熊大病院、熊本市民病院に

て初期研修を行い、熊本大学腎臓内科に入局後、医員として1年間勤務しまして、この度4月より熊本医療センターに赴任することとなりました。

初めての病院ということで少なからず不安な気持ちもあり、また医師としても腎臓内科医としてもまだまだ未熟ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞ宜しくお祈い致します。



糖尿病・内分泌内科
あらか ひろたか
荒木 裕貴

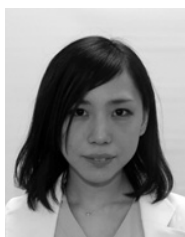
4月より糖尿病・内分泌内科で勤務させて頂くことになり

ました荒木と申します。

宮崎大学を卒業後、熊本大学附属病院・済生会熊本病院で初期研修を終えた後、平成27年度より熊本大学糖尿病・代謝・内分泌内科に入局しました。

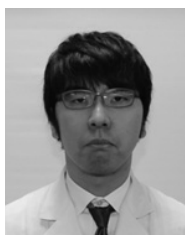
まだまだ経験不足で地域の先生方にはいろいろとご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、精一杯頑張る所存ですので、何卒よろしくお祈い申し上げます。

新任職員紹介



皮膚科
くりやま はるか
栗山 春香

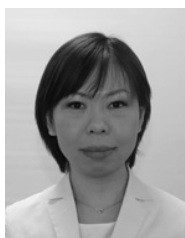
4月から国立病院機構熊本医療センター皮膚科に勤務させていただくことになりました栗山春香と申します。医師になって4年目、皮膚科に入局して2年目を迎えました。救急車が熊本で一番多いという熊本医療センターでの1年は新たな多くのことを学ぶ機会だと身が引き締まる思いです。まだまだ皮膚科医としても未熟でご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、フットワークと体力のできる限りカバーしたいと思います。何卒よろしくお願ひいたします。



消化器内科
とみぐち じゅん
冨口 純

媛大学医学部を卒業後、熊本大学医学部附属病院で研修後、平成27年より熊本大学医学部消化器内科に入局致しました。熊本医療センターでの勤務で出来るだけ広く、多くの知識や経験を糧にさらなる自身の成長につなげられればと思っております。私自身は消化器内科と言いましても、まだまだ未熟であり、至らない部分も多く、先輩方、スタッフの皆様のお世話になることも多いかと思ひます。頭と体ともに目一杯動かし頑張りますので何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

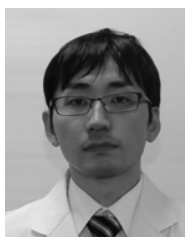
この度4月より熊本医療センター消化器内科でお世話になります。冨口純と申します。出身は熊本県で、平成25年に愛



小児科
よこやま ともみ
横山 智美

横山智美と申します。熊本大学を卒業後2年間、平成28年3月まで初期臨床研修を行い、この4月に熊本大学小児科に入局させていただきました。そのため、小児科医としてはスタートしたばかりですが、その第一歩を熊本医療センターで踏み出すことができ、嬉しく思っています。知識も経験もまだまだ未熟ではありますが、1日でも早く小児科医として成長し、少しでも多くの子供たちの笑顔を見られるよう努力していく所存です。熊本医療センターでの勤務は9月までの半年間ですが、どうぞ宜しくお願ひいたします。

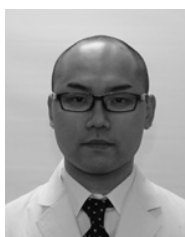
平成28年4月より勤務させていただくことになりました



精神科
みつざき こうし
満崎 晃志

平成27年に熊本大学精神科に入局し、昨年一年間は大学病院で勤務しておりました。熊本医療センターは、身体疾患を合併している精神科の患者様の救急搬送を、県内ではほぼ唯一受け入れているということで精神的には非常に重要な役割のある病院です。そのような病院に勤務させていただくことに不安もありますが、様々な経験ができること期待もしております。精神科医として少しでも多く熊本の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願ひ致します。

皆様、はじめまして。今年の4月より精神科で勤務させていただくこととなりました満崎晃志と申します。



精神科
かんの てつぺい
神野 哲平

ました。

生まれは高知県で、熊本大学に入学以来、熊本で生活をしております。2013年から熊本大学医学部附属病院および球磨郡公立多良木病院で初期研修を行った後、2015年4月に精神科医としての後期研修をスタート致しました。

2015年度は、認知症や進行性格上性麻痺・多系統萎縮症等どちらかと言えば変性疾患の症例を多く経験致しました。

当院での診療では、また異種の症例が中心になると存じますが、環境や業務に早急に適応し、微力ながら和していればと期しております。

2016年度より、よろしくお願ひ申し上げます。

お初にお目にかかります。

2016年4月から勤務致します、神野（かんの）哲平と申します。この度、熊本大学医学部附属病院神経精神科より参り

新任職員紹介



歯科口腔外科
きよみや ひろやす
清宮 弘康

4月から歯科口腔外科で勤務させて頂く清宮弘康と申します。九州歯科大学卒業後、母校の口腔外科に入局し、平成25

年度に大学院を修了致しました。その後、山口にあります徳山中央病院歯科口腔外科勤務後、この度、熊本医療センターで勤務させていただくこととなりました。抜歯などの歯科小手術から口腔腫瘍まで幅広く対応させていただければと考えております。また周術期や摂食・嚥下など歯科観点のアプローチから、少しでも皆様のお役に立てるよう精進して参りたいと思います。宜しくお願い致します。



歯科口腔外科
ふるその だいき
古園 大気

平成28年4月1日より、国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科および麻酔科で勤務・研修させていただくことになりました古園大気と申します。

平成24年より福岡県北九州にある九州歯科大学歯科麻酔科に入局し、小倉記念病院麻酔科・集中治療部、産業医科大学病院麻酔科と勤務してきました。

専門は歯科麻酔であり、顎骨骨折や腫瘍摘出時の全身麻酔管理や、歯科治療恐怖症や異常絞扼反射等のため通法下での歯科治療困難症例の静脈麻酔管理を行ってきました。

患者さんが安心して治療・手術を受けることができるように尽力致しますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

この度、代表電話からの地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのことご指摘を受け、直通電話を設置する運びとなりました。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8：30～PM 17：00

地域医療連携室長 清川哲志



研修のご案内

第177回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成28年6月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「劇症1型糖尿病の発症時に起こる注意すべき合併症について」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 木下翔太郎
 2. 「糖尿病患者のバランス能力と骨粗鬆症」
 熊本大学医学部附属病院糖尿病・代謝・内分泌内科 久木留大介 先生
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。
 【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

第208回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成28年6月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います
 「第1症例 血小板減少」
 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘
 「第2症例 循環器内科からの症例」
 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝
2. ミニレクチャー「肺炎の戦略的治療について」
 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 小野 宏
 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
 【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501 (代表) FAX:096-325-2519

第147回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成28年6月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「精神科救急（兼DSHカンファレンス）」

国立病院機構熊本医療センター精神科部長

渡邊健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第62回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成28年6月25日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長

野津原 昭 先生

演題：「浮腫」

1. 循環器疾患からみた浮腫 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治
2. 腎疾患からみた浮腫 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎
3. 蛋白尿と浮腫・高血圧 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 柿添 豊 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第88回 特別講演（無料）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成28年6月29日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

高橋 毅

「症例から学ぶ：専門性、総合性、統合力、連携を必要とする呼吸器診療」

熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学教授

興梠博次 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

2016年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研 修 室
1日(水)		
2日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	
3日(金)		
4日(土)		
5日(日)		
6日(月)		
7日(火)		
8日(水)		
9日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会	
10日(金)		
11日(土)	9:30~14:30 第38回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 すえふじ医院 院長 末藤久和
12日(日)		
13日(月)		
14日(火)		
15日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
16日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:00 第39回 市民公開講座 「口腔と嚥下障害について」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 20:00~21:30 第72回 医歯連携セミナー 「明日の歯科診療に役立つための〜心臓血管外科疾患」 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実	19:00~20:45 第177回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「急性肝炎について」
18日(土)		
19日(日)		
20日(月)		19:00~20:30 第208回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
21日(火)		
22日(水)	18:30~20:00 第147回 救急症例検討会 「精神科救急(兼 DSHカンファレンス)」	
23日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
24日(金)		
25日(土)	15:00~17:30 第62回 症状・疾患別シリーズ 「浮腫」 [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 野津原内科医院 理事長 野津原 昭 先生 1. 循環器疾患からみた浮腫 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治 2. 腎疾患からみた浮腫 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎 3. 蛋白尿と浮腫・高血圧 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 柿添 豊 先生	
26日(日)	13:00~17:00 第30回 臨床薬理セミナー 「周術期管理における薬剤師業務と今後の標準化を目指して」 1. 周術期の薬剤の使い方 2. 本院中央手術部における医薬品管理業務について 3. 手術室専任薬剤師の活動状況と業務標準化に向けた取り組み ディスカッション 「周術期管理における薬剤師業務と今後の課題について」	[日本医師会生涯教育講座3.0単位認定] [日本薬剤師研修センター認定研修2.0単位認定] 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 熊本大学医学部附属病院薬剤部薬剤師 伊藤祐子 先生 広島大学病院薬剤部主任 柴田ゆうか 先生
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
29日(水)	19:00~20:30 第88回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「症例から学ぶ: 専門性、総合性、統合力、連携を必要とする呼吸器診療」 熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学教授 興沼博次 先生	
30日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)